



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2018.1

No.406

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



大麻生探鳥会 350回を越えて

榎本秀和（鴻巣市）

11月号の連絡帳でもお知らせしましたように、(株)文一総合出版より『新日本の探鳥地 首都圏編』が出版されています。榎本氏もp92-93で大麻生を執筆されました。今月号は、そこで紹介しきれなかった思いを語っていただきました。

◇大麻生探鳥会のはじまり

1984年4月、日本野鳥の会埼玉県支部（現・日本野鳥の会埼玉。2010年11月に名称変更）が誕生しました。そして翌月の20日、早くも熊谷市大麻生の地で探鳥会が開催されました。当時の探鳥会は、現在から考えると信じられないぐらい参加者が少なく、何しろ参加者全員で自己紹介することもあるほどでした。

そのころの大麻生は、現在、ゴルフ場になっているあたりには広葉樹の林が広がり、草地・農耕地・ヨシ原・河原など、さまざまな環境の入り組んだ絶好の探鳥地でした。土手向こうの畑のなかに、物置き代わりだったのか、廃バス（1台）が置かれていた光景を今でも懐かしく思い出します。

「この素晴らしい地を野鳥のサンクチュアリに！」という熱い夢も湧き上がって、故・今井昌彦当会初代支部長のご尽力と、秩父鉄道(株)様のご理解により、秩父鉄道大麻生駅ホーム上に、早のワカセミを描いた「探鳥地大麻生」の看板（一度は塗りかえられたものの、老朽化のため、現在は撤去されています）が立てられたのもそのころのお話です。

しかし、1986年10月に、県営ゴルフ場が開設されてから、大麻生の地は一変してしまいました。

『しらこぼと』のバックナンバーを振り返

ってみると、その時々リーダーが大麻生のフィールド紹介記事を書いています。比較的近くでは、『しらこぼと』226号（2003年2月号）に掲載された「大麻生探鳥会200回の記録」という森本國夫氏の一文があります。100回目までと200回目までと、大麻生探鳥会で記録された野鳥を100回ずつ取りまとめて比較したものです。

なお、森本氏のご指摘によれば、「1994年5月8日の100回目」は、実は「106回目」に当たっていたということです。当会発足当初の、定例化されていなかったころの回数をどうカウントしたか、で違いが生じてしまったようです。

◇大麻生探鳥会 100回を越えて

さて、1994年5月8日、大麻生探鳥会は100回を迎えました（森本氏のカウントでは106回目。以下、（）内回数同じ）。探鳥会終了後に野外パーティーが企画されていたこともあり、当日の参加者は110人という盛況ぶりでした（ちなみに確認種数26種）。この日のために担当リーダーさんが用意して下さった自家製ビール（ノンアルコール）での乾杯は最高だったし、カケスのイラストをあしらったオリジナルワッペンも大好評でした（左下写真）。

こののちも大麻生探鳥会は、2003年3月9日に200回（206回）、2012年4月8日には300回（306回、カケスのワッペン再度作製。右ページ下写真）と回数を積み重ね、2016年12月の探鳥会でちょうど350回（356回）となりました。雨天などによる中止は、当然のことながら回数に入りませんから、これはたいへんな記録です。

三室地区探鳥会（さいたま市）とともにい



ち早く定例化され、当会の礎を築き歴史を刻んできた大麻生探鳥会。私は、大麻生の地から探鳥会リーダーの道を歩み始めた者のひとりとして、大麻生探鳥会開催回数 400 回の達成を目指したいと思っています。

◇大麻生探鳥会の現状—私の場合

現在、大麻生探鳥会は、4人のメインリーダーが輪番で担当しています。皆さんそれぞれのやり方があるわけですが、私の場合、探鳥会のコースは2つ設定しています。探鳥会の季節に応じて、どちらかを選んで探鳥会を開催しています。

ひとつ目のコースは、大麻生駅の東側、遮断機（警報機）なしの踏切から土手に上がって「野鳥の森」を目指すコース。途中には開けた草地もあって、秋はノビタキ、冬は小鳥類、春はレンジャクと、野の鳥・森の鳥が楽しめるコースです。野鳥の森の片隅にある池の畔で鳥合せ・解散となります。ここまで来れば「ひろせ野鳥の森」駅も間近です。

ふたつ目は、初夏から秋にかけて選ぶ林のコースです。大麻生駅の西側の踏切から土手に上がり、ゴルフ場の間の道に下りて、ゴルフ場の南側を迂回する「林の小径」です。往時の大麻生の面影がいちばん残っていて、私の大好きなコースでもあります。私の担当する探鳥会では、小径を抜けたあたりで鳥合せ・解散としています。そこから河原に下りたり、野鳥の森を目指したり、とアフターを楽しむこともできます。ただし、夏場の探鳥会では林の小径には入らず、緑陰をたどりながらまっすぐ「押切（おしきり）河原」に出て早目の解散としています。

どんな鳥に出会えるか、それはその日の運任せです。その時その時の鳥の多い少ないに一喜一憂すること

なく、四季折々の大麻生の地の表情を楽しむことこそ、「定例探鳥会」ならではの醍醐味と言えるでしょう。

なお、近年の探鳥会では、西に向かって明戸堰（あけどぜき）を目指すコースは歩かなくなりしました。鳥影が薄くなってしまったからかもしれません。それに、明戸の対岸の「白鳥飛来地」にはハクチョウは来なくなりしました。ひところはちょっとした観光スポットにもなっていたのですが、給餌が行なわれなくなったせいもあって、ハクチョウたちは少し上流の別な場所に移動してしまいました。

◇大麻生探鳥会の継続に向けて

何はともあれ、このように毎月、「定例探鳥会」として続いている大麻生探鳥会ですが、その運営は、実は、いつも「あやうさ」と隣り合わせ、という状況です。それはメインリーダーの「人のやりくり」の問題です。このことは今に始まったことではありませんが、かつては決まったメインリーダーさんが毎月担当して下さっていたこともあり。いろいろな事情でメインリーダーの交代があり、前述したとおり、現在は4人のメインリーダーが輪番で探鳥会を切り盛りしています。熊谷市在住のリーダーがひとりもいないというの、厳しいところです。私が切に願うのは、県北在住の役員・リーダー陣の充実、特に大麻生を担当して下さるメインリーダーの獲得です。新しい顔ぶれが増えなくては、400回達成もおぼつかないことでしょう。

探鳥会のリーダーを担当したとき、私はいつも実感することがあります。それは、参加者の皆さんが探鳥会をほんとうに楽しみにして参加して下さっている、ということです。ましてや、個人的な思い入れの深い大麻生ならなおさらです。たとえ細々でも大麻生探鳥会の「灯」は守り続けなければ…、という気持ちが込み上げてきます。

いかがですか、伝統ある大麻生探鳥会の歴史の1ページに、あなたの名前を加えてみませんか？ あなたのバードライフの、何かきっと変わると思いますよ。今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶を申し上げます

日本野鳥の会埼玉代表 海老原美夫

今年も皆様に良いことがたくさんありますように。

私たちはお互いに、「野鳥の会」という共通の場がなければ、会うことも知ることもなかったのではないのでしょうか。

それぞれ生まれた場所も年代も違いますし、その後の経歴・社会的な立場も、まったくまちまちです。

そんな背景をぬきにして、私たちは、野鳥の会の会員であるという点だけでつながっています。そして長い人では何十年も続く鳥友になっています。

ボランティアとして野鳥の会の活動に参加して、鳥との出会いなどを楽しみながら、「人とのつながり」というかけがえのない財産も得ているわけです。

こんな楽しみと大切な財産を、今年も更に多くの人々に手渡していきたい、それが、野鳥と野鳥たちの生きる環境を守ることにつながるからです。



伊豆沼・蕪栗沼に行ってきました 長嶋宏之（蓮田市）

11月20日～21日、幸いにも天気予報が外れ、辺は穏やかで温かな鳥見日和でした。

8万羽に近いマガンや1千羽を超えるオオヒシクイが夕日を浴びて埒入りする光景には相変わらず、我を忘れて感動しました。

1羽のハクガンは確認できませんでしたが、シジュウカラガンは1千羽を超えるようにな

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

●ヨーロッパトウネン

英名 Little Stint

学名 *Calidris minuta*

分類 チドリ目シギ科オバシギ属



本会会員の山田東二さんより、2017年10月3日に川越市の伊佐沼において撮影した、上掲ほか5枚の写真が寄せられました。

写真を検討した結果、当委員会はヨーロッパトウネンであることを確認し、本種の当県内2例目の記録として発表します。当該個体は背にはっきりしたV字形白線が見られ、幼鳥と思われます。

本種は、数少ない旅鳥または冬鳥として全国的に記録がありますが、当県では、2006年11月26日の越谷市での初記録（本誌2007年6月278号）以来のことです。

ったとのこと。カリガネはスコープで確認できましたが、写真にはなりません。残念！

その他、オジロワシやチュウビ、ヘラサギやツルシギ、アカゲラ、アオゲラ、ベニマシコ、イソヒヨドリなど2日間で57種を楽しめました。

伊豆沼・蕪栗沼は何度行っても良いところですね。





野鳥情報

さいたま市浦和区木崎3丁目 ◇9月9日、上空をトビが1羽南へ。見沼代用水斜面林でコサメビタキ1羽、キビタキ♀1羽、コゲラ、シジュウカラの家族（鈴木紀雄）。

蓮田市閩戸 ◇9月10日、田んぼの畔でオオジシギを観察する。ここでは初めて。その後、9月29日まで観察できた。9月12日、雨の中、屋敷林にサシバ2羽。カラスに追われて直ぐに飛び立つ。9月14日、見沼代用水沿いの桜並木でシジュウカラと一緒にコサメビタキ2羽。コサメビタキは閩戸で初めて。9月15日、久伊豆神社境内の木にコサメビタキ2羽。シジュウカラと一緒にいた。9月17日、雨の中、田んぼの畦道でノビタキ2羽、今季初認。9月25日、堤外公園の桜の木でツツドリ、今季初めて。9月26日、朝の散歩からの帰宅間際、自宅前でサシバ。同日、見沼代用水沿いの屋敷林でサシバ。同日、堤外公園の桜の木でツツドリ。9月29日、朝の散歩からの帰宅間際、自宅前でサシバ。すぐ近くの屋敷林にとまったが、カラスに追われて飛び去る。同日、田んぼの農道脇のセイタカアワダチソウにとまっているノビタキ1羽。同日、堤外公園の桜の木でツツドリ。同日、綾瀬川沿いの上空で今季最後のツバメ1羽（関口明宏）。

蓮田市駒崎地区 ◇9月11日、農業排水処理施設横の電線に60羽程のツバメの中に約10羽のショウドウツバメ。今季初めて。9月26日、田んぼの畦でノビタキ2羽。9月27日、田んぼの畦でノビタキ3羽。9月28日、田んぼの畦でノビタキ2羽。9月30日、稲刈りが終わった田んぼの藁積みに3羽のノビタキがとまっていた（関口明宏）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇9月13日、Aside地区でタシギ3羽、ジシギ不明種（飛翔）約10羽、キジ♀1羽、チョウゲンボウ♀1羽、ムクドリ1000羽。A区でタシギ2羽、チュウジシギ1羽、ムナグロ1羽、チョウゲンボウ♀1羽（鈴木紀雄）。

川越市伊佐沼 ◇9月16日、セイタカシギ8羽、タシギ1羽、コチドリ15羽、イカルチドリ1羽、イソシギ3羽、コガモ10羽。クロハラアジサシ冬羽1羽、飛翔（鈴木紀雄）。◇9月17日、シマアジ1羽、雨天の中で確認（台風18号接近時）。コガモ2羽とともに泳ぐ。当会の廣田純平氏が翌日に2羽確認とのこと（神戸宇孝）。

川越市氷川町 ◇9月16日、休耕田でエリマキシギ♂1羽、オジロトウネン1羽、ヒバリシギ1羽、ハマシギ1羽、タシギ4羽、コチドリ7羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月19日、体育館前のクスノキでエナガ、シジュウカラ各5～6羽の混群。テストコース南側の林でキビタキ♂1羽、♀1羽、エゾビタキ2羽、コサメビタキ1羽（藤原寛治）。

川口市内 ◇9月19日、川口市内でブッポウソウを見てしまいました（下写真）。エゾビタキを2羽見つけ、写真を撮っていたところ、何とその木に羽に斑のある黒っぽい鳥が飛んできたのです。初めて見る鳥だと思い、急いでいたのも忘れ、2時間観察してしまいました。長い時間枝に寄りかかる感じでまったりとしていましたが、それでも3度ほど悠然とした飛翔を見せてくれました。その日暗くなりかけた時間に、羽に白斑のあるチョウゲンボウくらいに見える鳥が、ツバメのような飛び方でずっと飛んでいるのも見ました。昼間と違って勇ましい感じに見えました（中橋由美子）。



蓮田市西城沼公園 ◇9月21日午前9時27分、気が付いたら、サシバが真っ直ぐ南に流れていた。9月24日午前9時15分、サシバが屋敷林から飛び立ち、輪を描きながら南東に移動。メジロとシジュウカラが夫々

3～5羽とコゲラが1羽の混群の中にコサメビタキが1羽。フライキャッチしていた。屋敷林からカケスが1羽飛び出した。今季ここでの初認。9月27日午前9時18分、サシバが屋敷林から飛び立ち、羽ばたきながら南に飛び去った。9時30分、屋敷林の上空、2羽のカラスに追われてサシバが少し離れた屋敷林に逃げ込んだ。同日、屋敷林からタカの声。オオタカのような。100mほど離れてモズが2羽。夫々高鳴きしていた。今季ここで初認。9月28日午前10時20分、杉の木の天辺にとまって、周囲を睥睨していた。サシバ成鳥♀のようだ。無風でどんより曇った日なので飛べないのだろう（下写真）。ツバメ2羽、上空通過。今季ここでの終認。シジウカラ数羽とエナガ2羽が桜の木で採餌。9月29日午前7時30分、北からヒヨドリの30～50羽の群れが数群れ飛来。渡ってきたようだ。急に賑やかになってきた。10月1日、ヒヨドリが21羽、渡ってきた。今年の群れは5～10羽のことが多く、声も小さく、少ないように感じる。10月5日、オオタカが屋敷林の上で輪を描いて南西に流れた。10月7日午後5時30分、カラスの罅入りの群れ200羽土を今季初めて見たが、数日前から集団罅入りが始まっていたかもしれない（長嶋宏之）。



春日部市内 (5339-7559) ◇9月22日午前9時15分頃、防災センター付近の交差点でシラコバト1羽が近くの電線に飛来しとまり、「ポッポー」と2声鳴いた。2016年度冬期（12月～今年の2月まで）の生息調査時には数回、現地調査を行ったが、いずれも存在を確認できず、他所へ移動したか、寿命か

と想っていた。久しぶりに出会えて感激した。証拠写真は撮ってある。県当局への報告はこれからだ（石川敏男）。

春日部市中野グラウンド (5339-7640) ◇10月2日午前10時15分、「谷原中学校庭の東、安之堀川を隔てたサッカーグラウンドの芝地にシギチが3羽入ったが、種名がわからない」と鳥友から携帯に入電。自宅近くなので現場へ急行。芝地の中ほどで採餌するムナグロ3羽を確認。内1羽は体羽が黄色を帯びる。昨夜の降雨で芝地全体が湿っており、餌となる虫が捕りやすいのだろう。当方の立ち位置はグラウンドフェンスの外側の草地で、今日はやたらとコバエが多く、衣服にまとわりつき煩わしい。このこととムナグロ飛来とは関係していると思われる。10時22分、西方よりチョウゲンボウ1羽が飛来した途端、ムナグロは「ピューウ」と一声発して飛び去ってしまった。鳥友ともどもチョウゲンボウに気を取られ、ムナグロの去った方向はわからず仕舞（石川敏男）。

北本市北本自然観察公園 ◇10月3日午後3時、高尾の池でコガモ63羽（小貫正徳・とみ子）。

さいたま市の鴨川 ◇10月4日、島根橋付近～堀の内橋間でカルガモ100羽土、コガモ36羽土、マガモ、オナガガモ、カイツブリ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、イソシギ、カワセミ、ノスリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズなど。草が刈られた閑沼でタヌキ2頭が餌探し。夕方、学校橋近くの畑の上空をオオタカ成鳥1羽が一直線に飛んで、民家の庭のケヤキの中に身をひそめた。西方の鉄塔付近にムクドリ数百羽（大塚純子）。

桶川市後谷調整池 ◇10月5日午前6時40分、マガモ♂1羽♀1羽（小貫正徳）。

表紙の写真

カモ目カモ科マガモ属ヨシガモ

「容姿よき鴨」が語源と言う説もある人気者。今冬も彩湖に来てくれるかな。

蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



タゲリ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。実際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(木)

集合：午前10時10分、さぎ山記念公園入口。

交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場 9:28 発「浦和学院高校」行き、または東浦和駅③番バス乗り場 9:37 発「さいたま東営業所」行きで、「さぎ山記念公園」下車。

担当：海老原、浅見(徹)、宇野澤、楠見、工藤、小林(み)、新部

見どころ：新年最初の探鳥会。終了後、恒例の野外懇親会。ただし今年は**酒類なしの昼食お茶会**で。食物・敷物は各自ご用意を。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月6日(土)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:42 発下笹目行きで、「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

解散：正午ころ、荒川彩湖公園駐車場付近。

担当：小林(み)、石塚(敬)、石塚(真)、石塚(奏)、今村、野口

見どころ：カモたちは恋の季節に向けて、きれいな羽に変身。カムリカイツブリは？お知らせ：「ビギナー探鳥会」を同時開催。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月6日(土)

集合：午前 10 時、ふなばし三番瀬海浜公園バス停留所付近。注：JR 船橋駅での受付はしません。

交通：JR 武蔵野線 南浦和 8:14→西船橋で総武線 9:05 に乗換え、船橋 9:08 着。京成バス 9:20 発船橋海浜公園行きに乗車し、終点下車。京成バス乗り場は京成船橋駅付近にあります。リーダーがご案内します。

担当：菱沼(一)、佐久間、佐野、杉本、菱沼(洋)、渡邊

見どころ：ミヤコドリ、ミュビシギなど埼玉で出会えない鳥と海ガモなどが中心。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月7日(日)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。

交通：東武伊勢崎線 せんげん台駅東口、茨急バス③番乗り場から松伏町役場行き 8:48 発で「まつぶし緑の丘公園」下車。

担当：橋口、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、田邊、野村、森下、山部

見どころ：丘が開放され、コースを若干変更します。丘では何が現れるか楽しみです。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月8日(月・祝)

集合：午前9時20分、森林公園南入口前広場。

交通：東武東上線 森林公園駅北口から 9:00 発熊谷駅南口行きバスで「滑川中学校」下車。歩道橋を渡り少し戻る。

費用：参加費と入園料大人410円(子供80円)、
65歳以上210円(要・年齢確認できるもの)。
担当：鈴木(秀)、大坂、大畑、佐久間、中村
(豊)、藤掛、藤澤、松下
見どころ：南口から山田大沼までのコース。
落ち葉の道では？ 見上げる空では？

さいたま市・民家園周辺臨時探鳥会

期日：1月8日(月・祝)
集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園
駐車場、念仏橋バス停前。
交通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から東川
口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。
担当：伊藤、大井、須崎、高崎、手塚、野口、
藤田、若林
見どころ：水面のたくさんの水鳥達！
ご注意：コース途中にトイレがありません。
吹きさらしに防寒対策をしっかりと。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月8日(月・祝)
集合：午前9時15分、アスレチック広場前・
第一駐車場。
交通：東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り
場から春日部エミナス行き 8:41 発で、
「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。
担当：石川、佐藤、佐野、進士、野村、橋口
見どころ：雑木林や屋敷林ではツグミ類、田
んぼではタヒバリ、時にタシギも！
※帰路バス時刻：13:07、14:20(11月現在)。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月13日(土)
集合：午前9時、JR 高崎線 深谷駅南口ロー
タリー。
担当：新井、鶴飼、小渕、倉崎、田島
見どころ：冬のスターはトラツグミ。昨年は
全員でバッチリ。ルビタキにも期待です。

埼玉 Young 探鳥会 【追加開催】 加須市・渡良瀬遊水地

期日：1月13日(土)
集合：【電車の方】13時、東武日光線 板倉東
洋大前駅東口。

【車の方】13時15分、渡良瀬遊水地 想い
出橋駐車場

解散：17時ころ渡良瀬遊水地内(解散後、駅
まで先導します)。
担当：廣田、石塚(敬)、石塚(真)、石塚(奏)、
河邊、島崎、高崎
見どころ：冬の小鳥たちと猛禽類を探し、夕
方からはチュウヒのねぐら入りを観察。
ご注意：①極寒期です。寒さ対策をしっかり。
②解散後は暗いので懐中電灯等をご持参。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月14日(日)
集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。
交通：秩父鉄道 熊谷 9:09 発、または寄居
8:50 発に乗車。
担当：千島、新井、鶴飼、倉崎、田島、飛田、
中川、村上、茂木
見どころ：野鳥の森でジョウビタキ、カシラ
ダカ、アオジ、ベニマシコ、シメ、クロジ。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月14日(日)
集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐
車場。
交通：東武日光線 新越谷7:19発、春日部7:36、南
栗橋7:54、柳生8:07着。またはJR宇都宮線 大宮
7:13発、久喜乗り換え栗橋7:38着で東武日光線
に乗り換え、柳生8:07着。
解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。
担当：佐野、入山、植平、佐藤、進士、田邊、玉
井、野口、山田
見どころ：谷中湖ではミコアイサやカワアイ
サ、ヨシ原ではベニマシコやオオジュリン。
ミサゴやチュウヒも飛ぶでしょう。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月18日(木) 平日
集合：午前9時15分、久喜菖蒲公園駐車場。
交通：JR 宇都宮線 白岡駅西口から朝日バス
菖蒲仲橋行き 8:36 発で、「除堀(よけぼり)」
下車、徒歩約15分。バス停からご案内。
担当：長嶋、石川、大坂、佐藤、竹山、中川、

吉原(俊)、渡邊

見どころ：昨年はトモエガモなど10種類のカモを観察。トイレは4か所あります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月20日(土) 午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月21日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館
担当：須崎、青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、新部、畠山、増田
見どころ：のんびり歩き、カモ類・猛禽類・冬の小鳥などの基本種を楽しみます。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月21日(日)
集合：午前9時40分、秩父鉄道 長瀬駅前。
交通：秩父鉄道 御花畑8:59発、または寄居9:21発(熊谷8:52発)に乘車。
担当：井上、鶴飼、佐久間、堀口、松下
見どころ：昨年はオシドリとイカルの群れを観察。長瀬駅から荒川下流・水管橋へ歩くコース。蓬莱島には駐車場とトイレが完備。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月23日(火) 平日
集合：午前9時20分、森林公園南入口前。
交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス9:00発で「滑川中学校」下車、歩道橋を渡り少し戻る。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。
費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(要・年齢確認できるもの)。
担当：中村(豊)、大坂、大畑、岡安、藤掛、松下
見どころ：寒くてもカラ類、エナガ、ルリビタキたちは元気。山田大沼にはカモも。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月25日(木) 平日
集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。
交通：羽生市福祉バス 手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)で東武伊勢崎線 羽生駅東口8:04発、南羽生駅8:21発で「キャッセ羽生・水郷公園」下車。
共催：羽生水郷公園管理事務所
担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹山、飛田、中川、茂木
見どころ：ヨシ原ではオオジュリンやベニマシコ、池ではカモ類を探します。真っ白な日光連山を背景に飛ぶタカにも期待。
ご注意：帰りのバスは14:50発です。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月28日(日)
集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。
交通：西武新宿線 本川越8:42発、所沢8:39発に乘車。
解散：正午ころ、稲荷山公園。
担当：長谷部、石光、島崎、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本
見どころ：最も鳥の多い時季。河原、稲荷山公園で冬鳥を探します。特に、2014年3月以来記録のないビンズイを見つきたい。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月28日(日)
集合：午前9時、環境学習館前。
交通：JR宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス8:50発国立東埼玉病院行きで「新井団地」下車。バス停からご案内します。
担当：長野、青木、内田、榎本(建)、小林(み)、田中、玉井、長嶋、菱沼(一)、菱沼(洋)、廣田、星野
見どころ：水辺、ヨシ原、草原、田畑、屋敷林などの様々な環境をのんびり散策しながら観察します。
ご注意：車で来られる方は、出発地点の環境学習館ではなく、北側にある“緑のトラスト保全第11号地 黒浜沼駐車場”(環境学習館まで徒歩1分)を利用してください。



行事報告

4月29日(土、祝) 栃木県 小倉山森林公園

参加: 67名 天気: 曇

カルガモ キジバト カワウ アオサギ アマツバメ トビ カワセミ コゲラ アオゲラ サンショウクイ モズ カケス オナガ ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ エゾムシクイ センダイムシクイ メジロ ヒレンジャク ムクドリ カワガラス コサメビタキ オオルリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ カワラヒワ アオジ (36種) (番外: ドバト) オオルリ、コサメビタキ、サンショウクイ: 全員が堪能!!! キビタキには出会えなかったが、行事案内に「オオルリに出会えます」と記載した手前プレッシャーはあったが、安堵した。2つの班で探鳥したが、1つの班はこの時季にヒレンジャクに遭遇。駅から徒歩で行ける探鳥地としてはなかなかの場所だと自画自賛。(青木正俊)

5月3日(水、祝) 幸手市 宇和田公園

参加: 51名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ キジバト シラコバト カワウ アオサギ ダイサギ チュウサギ オオバン ムナグロ トビ チョウゲンボウ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (29種) (番外: ドバト) しばらく見られなかったシラコバトがいつもの電柱でポッポッポ。ベテランNさんがまず声で気がついてくれた。江戸川土手でオオヨシキリやセッカを見てから水田地帯へ。水を入れる前の田んぼにムナグロがいてくれた。保護色で非常に見つけ難いなか、神の眼・Yさんが発見。(佐野和宏)

5月5日(金、祝) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 75名 天気: 晴

ヒドリガモ カルガモ コガモ キジバト カワ

ウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン ダイゼン コチドリ メダイチドリ セイタカシギ チュウシャクシギ キアシシギ キョウジョシギ トウネン ハマシギ コゲラ ハヤブサ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ ムクドリ オオルリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (33種) (番外: ドバト) 淡水池近くでオオルリの声。干潟の東側ではキョウジョシギやメダイチドリなどを近距離で観察。終了間際にはハヤブサが絶妙のタイミングで出現。(杉本秀樹)

5月7日(日) 入間市 さいたま緑の森博物館

参加: 21名 天気: 曇

コジュケイ キジ キジバト カワウ アオサギ カワセミ コゲラ アオゲラ オナガ ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ ムクドリ クロツグミ キビタキ オオルリ スズメ カワラヒワ シメ (25種) (番外: ガビチョウ) 一気に濃さを増した緑の中、耳が頼りのBird-listening探鳥会だった。専らキビタキやウグイス等の囀りを楽しんでいて、目の利く人が沈黙のオオルリ♀を見つけてくれて、双眼鏡の順番もあった。「キビタキの声を求めて森行けば処々にかしましガビチョウの声」(石光 章)

5月12日(金) 長野県 中軽井沢 Ladies'

参加: 19名 天気: 晴

カルガモ キジバト アオサギ オオタカ コゲラ アカゲラ アオゲラ サンショウクイ ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス ヤブサメ エナガ センダイムシクイ メジロ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクドリ コムクドリ クロツグミ アカハラ コルリ コサメビタキ キビタキ オオルリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ イカル ホオジロ (37種) 先ず長倉神社ではコムクドリやキビタキ、アオゲラ。そのアオゲラの声に導かれて別荘地を進むと、オオルリ、クロツグミ、コルリなど。コルリは声のみだったが、晴天に恵まれ野鳥の森、ピッキオまでの道すがらカラ類、ムシクイ類など様々な鳥たちの美しい歌声を充分楽しむ事が出来た。(吉原早苗)

5月13日(土) 加須市 加須はなさき公園

雨のため中止。

(長嶋宏之)

5月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 56名 天気: 曇

コジュケイ キジ カルガモ キジバト カワウ
アオサギ ダイサギ トビ オオタカ コゲラ
モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ
ウカラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ
ウグイス エナガ メジロ オオヨシキリ ムク
ドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ
カワラヒワ ホオジロ (28種) (番外: ドバト、ガ
ビチョウ) ウグイスがあちこちでさえずり、コ
ゲラ、セグロセキレイが鳴きながら飛んだ。シジ
ュウカラ、カワラヒワ、メジロもさえずっていた。
河原でホオジロのさえずりを聞きながら、サギ類
やオオタカを見た。キジ、コジュケイの声が聞こ
え、野鳥の森の端でヒバリがさえずり、ツバメ、
イワツバメが森の上空を飛んだ。(千島康幸)

5月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 6名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、
志村佐治、三ツ矢正安

5月20~21日(土~日) 栃木県民の森・奥日光

参加: 25名 天気: 快晴

県民の森: キジバト コゲラ サンショウクイ
サンコウチョウ モズ ハシブトガラス シジュ
ウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス ヤブサメ
エゾムシクイ センダイムシクイ メジロ クロ
ツグミ コサメビタキ キビタキ オオルリ ホ
オジロ (19種) 奥日光: マガモ キジバト ア
オバト カワウ ゴイサギ アオサギ オオバン
ホトトギス カッコウ ヨタカ オオジシギ ノ
スリ フクロウ コゲラ アカゲラ アオゲラ
モズ カケス ハシブトガラス コガラ ヒガラ
シジュウカラ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス
エナガ メボソムシクイ エゾムシクイ センダ
イムシクイ ゴジュウカラ ミソサザイ ムクド
リ カワガラス アカハラ ノビタキ コサメビ
タキ キビタキ オオルリ ニュウナイスズメ
スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ビンズイ ホオアカ アオジ (46種) 栃
木県民の森からスタート。宮川渓谷を探鳥。鳥

の姿が見づらかった。「鳥の姿を見たい」と思いな
がら奥日光へ移動。翌朝は、メインイベントの
「早朝戦場ヶ原探鳥」。湯川沿いを青木橋に向かっ
て歩くとキビタキ等を見られた。戦場ヶ原を見渡
せるところで、朝靄の中、枯木に止まるフクロウ
の姿をじっくり見られた。オオジシギは鳴き声だ
けだったが、戻る時に飛ぶ姿を見られた。朝食後、
湯滝から光徳牧場入口まで湯川沿いを探鳥。オオ
ルリやキビタキの姿を堪能した。昼食時、ホテル
の窓越しにカッコウとカケスを見られ、光徳牧場
名物のアイスクリームを食べて探鳥会を終了。2
日間で51種、普段は余り見られない鳥達に出会え、
楽しい2日間だった。(入山 博)

5月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 65名 天気: 晴

キジ カルガモ キジバト カワウ カワセミ
コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ セン
ダイムシクイ オオヨシキリ ムクドリ スズメ
ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (20種) (番
外: ドバト) 5月だというのに真夏日。そんな
中でも多くの参加者に恵まれ、流石伝統ある三室
探鳥会。出現鳥は少ないが空にも畑にもヒバリは
たくさん。木陰ではキジが一休み。林の中にはセン
ダイムシクイ。お目当てのコチドリに出会えな
かったのが残念であった。気温も上がってきたの
でコースを短縮し早めの解散とした。(青木正俊)

5月27日(土) 栃木県 渡良瀬遊水地 Young

参加: 35名 天気: 雨後晴

キジ カルガモ キジバト カワウ アオサギ
ダイサギ コサギ カッコウ コチドリ コアジ
サシ トビ カワセミ ハシボソガラス ハシブ
トガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨ
ドリ ウグイス オオセッカ オオヨシキリ コ
ヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ カワラヒ
ワ ホオジロ (27種) 東京・栃木との3支部合
同開催、Nikonからの双眼鏡貸出、BIRDER誌の取
材とお祭り状態だったが、生憎の小雨。スタート
すると曇り空と強風。それでも谷中湖をコアジサ
シが舞い、木の上ではカッコウ、アシ原ではオオ
ヨシキリが盛んに鳴き、さらに奥まで行くとオオ
セッカ、コヨシキリが出迎えてくれ、お目当ての
鳥はだいたい見られた。(廣田純平)



● 「見沼秋フェス 2017in さぎ山」に出展

10月28日(土)-29日(日)の予定が、29日(日)悪天候のため28日(土)のみになりました。小林みどり副代表を中心に10名以上の役員・リーダーがスタッフとして参加、本部からも普及室販売出版グループの富岡さんから3名が駆けつけました。ご来訪の方々は、「鳥の羽根の展示」では、鳥の羽根飛ばしに夢中になったり、簡易顕微鏡の前から離れない子も。「親子ミニ探鳥会」には10数名が参加。「物品販売」では長靴などを買い求めていただきました。



(奥のコバトンは、当会のものではありません。)

● さいたま市緑区環境講演会を後援

緑区環境講演会実行委員会主催、当会等後援の講演会が、今年度も開催されます。

日時：平成 30 年1月 28 日(日) 13:30 開場

14:00 開演 16:00 終演予定

会場：緑区役所3階大会議室

内容：「見沼を食らう Part II～見沼たんぼの農業と市民の力～」講演とパネルディスカッション

定員：80人(先着順) 入場料：無料

問い合わせ：緑区役所コミュニティ課 TEL:048-712-1131

申込み：1月5日(金)から「環境講演会希望」と住所・氏名・電話番号・人数を明記の上、FAX:048-712-1272、または Email:midoriku-community@city.saitama.lg.jp へ。

● 会員数は

12月1日現在1,668人です。

活動と予定

● 10-11月の活動

10月15日(日)役員会(司会:浅見徹、1~4月の行事予定・その他)。

11月11日(土)12月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之)。

11月19日(日)役員会(司会:近藤龍哉、行事予定の追加・その他)。

11月20日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』12月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 1月の予定

1月6日(土)編集部会。普及部会。

1月13日(土)2月号校正(午後4時から)。

1月20日(土)袋づめの会(午後3時から)。

1月21日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

野鳥リポーターの呼び掛け人として、自分自身もリポーターになった。いつも行く場所の記録を継続的にしっかりとることで、何となく見ていた時よりも鳥について気が付くことが増え、より興味が湧いて来たように思う。記録をとるのは面倒だなと思っているあなたも、一步踏み出してみませんか。(森本)

しらこぼと 2018年1月号(第406号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社